

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立歴史博物館
所在地	高崎市綿貫町992-1
所管部局・課	地域創生部 文化振興課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

社会教育法、博物館法、群馬県立歴史博物館の設置及び管理に関する条例

2 施設の役割

(1) 設置目的 群馬県の歴史の変遷と発展に関する資料を収集・保管・展示し、県民の利用に供することを通じて、県民の教養を高め、かつ群馬県の歴史と文化を調査・研究・学習するあらゆる人のために資する様々な事業を行うことで、本県の教育、学術及び文化の発展に寄与する。
(2) 設置当初の状況 昭和54年10月に社会教育施設として設置した。
(3)施設を取り巻く現状 常設展・企画展・テーマ展示等の展示と小学生を中心とする子供たちに対する体験学習を二本柱として実施している。 本施設は、県立都市公園「群馬の森」内に位置し、県立近代美術館と隣接しており、公園全体として、本県を代表する文化・芸術エリアを形成するとともに、広く県民の憩いの場となっている。 大規模改修工事(平成26年10月～平成28年6月)を経て、平成28年7月にリニューアルオープン、翌29年7月にグランドオープンした。

3 施設の概要

設置年月日	昭和54年10月1日(開館10月21日)
敷地面積(所有者)	11,800平方メートル(群馬県)
主な施設(床面積、階数等)	延べ床面積 7,819.79平方メートル、地上3階、地下1階建
建設費	2,066,640千円
備考	平成21～22年度子どもにやさしい歴史博物館整備事業(2億円)

◇入園料・利用料等 (円) ◇利用時間(休館日)

区分	金額	9:30～17:00(入館は16:30まで) 月曜休館(祝日の場合はその翌日) 年末年始
一般	300、団体240	
大学生・高校生	150、団体120	
中学生以下	無料	
障害者・介護者	無料	

4 施設における実施事業

- ・展示
常設展示、企画展示、特別収蔵品展
- ・教育普及事業
企画展関連…ギャラリートーク、講演会、ハンズオン、企画展のテーマに関連したワークショップの開催
博物館講座…館長講座、学芸員等による講座、県内外の気鋭の研究者による講座
学校対応……ワークブックを活用した展示学習、火おこしなどの体験学習
生涯学習……歴史・文化をテーマにしたワークショップの開催
- ・資料収集管理及び調査研究

5 管理運営コストの状況

施設の管理運営に係る収支 ※施設の管理運営に係る県の歳入・歳出を記載

(千円)

区 分	5年度(決算額)	4年度(決算額)	3年度(決算額)	2年度(決算額)	元年度(決算額)	H30年度(決算額)	H29年度(決算額)
歳 入(①)	14,540	23,205	15,994	14,980	19,886	15,017	14,194
国庫支出金	1,000	1,500					0
使用料	11,787	18,190	13,315	12,119	16,051	12,746	11,688
雑入(文化振興課)	1,753	3,515	2,679	2,861	3,835	2,271	2,506
歳 出(②)	320,784	328,353	305,413	259,167	308,632	292,098	268,634
常勤職員	134,906	130,483	129,642	135,448	118,921	117,942	124,471
非常勤職員	35,030	33,584	33,074	30,186	29,970	26,545	27,400
管理運営費	110,375	114,720	107,422	43,547	103,321	98,733	50,824
事業費	40,473	49,566	35,275	49,986	56,420	48,878	65,939
歳入・歳出の差額(①－②)	-306,244	-305,148	-289,419	-244,187	-288,746	-277,081	-254,440
歳入・歳出の主な増減理由	(歳入)令和2年度はコロナ禍による臨時休館及び外出自粛の影響で使用料のうち観覧料収入が減少。令和4年度は企画展「戦国上州の刀剣と甲冑」が好評だったため観覧料収入が増加。 (歳出)令和2年度はコロナ禍による臨時休館の影響で管理運営費(光熱費や委託料)が減少。令和4年度は電気料の高騰に伴い、管理運営費が増加。						

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度	H30年度	H29年度
常勤職員	14	14	14	14	14	14	15
非常勤職員	14	14	14	14	14	14	12
合 計	28	28	28	28	28	28	27

7 施設利用の状況
年度別の利用者数

区 分		5年度※1	4年度	3年度	2年度	元年度	H30年度	H29年度
年間利用者総数(人)		88,041	92,424	73,943	59,879	110,152	88,636	79,200
	有料利用者数(人)	44,901	54,252	40,668	36,526	56,618	45,115	30,672
	無料利用者数(人)	43,140	38,172	33,275	23,353	53,534	43,521	48,528
目標利用者数(人)※2		100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	90,000
施設稼働率(%)※3		—	—	—	—	—	—	
稼働率対象施設(設備)		博物館						
利用者の主な増減理由		新型コロナウイルス感染防止対策のため、令和2年3月から令和5年3月までの期間に臨時休館や入館者の人数制限等を実施						

※1 令和5年度末時点の利用者数

※2 目標利用者数を設定していない場合は無記入

※3 施設稼働率の概念が当てはまらない施設は無記入

8 必要性及び管理運営方法についての方向性

区 分	内 容
施設の必要性	当館は、平成21年度、公共施設のあり方検討委員会において、「本県の歴史文化に係る研究・社会教育の中心施設として、数多くの県民に利用されており、その設置目的は、今日においても失われておらず、教育的効果も高い施設と考える。本施設の今後のあり方としては、継続とすべきである」との答申を受けている。 その後、大規模改修工事を経て、平成29年7月にグランドオープンし、多様な企画展示や国宝「綿貫観音山古墳出土品」及び通史展示を行う常設展示を通して、群馬県の歴史文化を県内外に積極的に発信し、来館者を各地に残る歴史文化遺産へと誘う役割を担っている。 さらに、子どもたちが群馬県のすばらしい歴史を学び、自分たちが生まれ育った故郷への愛着と誇りを育むため、展示学習やワークショップ等の教育普及活動を行っている。 令和2年度には、文化観光拠点法に基づく国の認定を受け、「歴史博物館イノベーション文化観光拠点計画(R2～R6)」を推進しており、展示室内のデジタル化、ストーリー性のある展示解説や多言語化など、年代や国籍を問わず楽しめる観光拠点としての機能強化にも取り組んでいる。 当館は、県民が本県の歴史文化のなりたちを正しく理解し、未来を展望するのに役立つ研究・展示・教育普及活動を総合的に行うとともに、国宝の収蔵管理を責任を持って行う博物館として必要不可欠な存在であると考えている。
指定管理者制度	施設の専門的な管理運営及びサービスは、歴史博物館の核となる学芸業務(調査・研究、学術判断をもった資料収集、展示、適正な収蔵品保管)及び教育普及業務(児童生徒への教育的観点からの展示学習指導等)が十分に機能することで成立する。また、この仕組みを維持するには、高い専門性を持った良質な職員(学芸員等)の確保、育成が極めて重要となる。 現状、当館においては原始から近現代に至る各時代毎に学芸員資格を持った職員がその専門性を生かした活動を行うとともに、教員資格を持った職員が、知見と経験を生かして歴史と文化を楽しく学べる環境を整えている。 一方、指定管理となった場合、こうした人材を有し、適切に管理運営を行うことができる団体・事業者を探すことができない可能性があり、博物館の目的を維持することが困難になることが危惧される。 特に、本館における展示のために国宝や重要文化財を借用する際には、借用先から当館への信頼性がないと成り立たず、県が直接運営する博物館への信頼性は、他に替えられないと考えられる。

業務等の見直し	当館では、大規模改修工事を契機に新たに策定した「博物館の使命と事業方針」(H26.3策定)に基づき、事業展開している。 令和2年9月に「綿貫観音山古墳出土品」が国宝に指定されたことを機に、東国古墳文化展示室を国宝展示室にリニューアルし、本県の特徴ある文化資源の情報発信拠点機能をさらに高めた。 令和3年にはデジタル埴輪展示室を開設し、「埴輪3Dホログラム」や「埴輪スコープ」などにより立体的な埴輪を全方位からより親しみやすく観覧できる環境を整えた。 通史展示室では、コンセプトである「群馬の風土・自然と人びとの暮らし」「群馬の生活・生産技術と人びとの交流」「群馬のなりたちと人びとのつながり」の3つのテーマをさらに明確化するために模型や映像を使うほか、デジタルコンテンツ、展示解説の強化、多言語解説などを行い、訪日外国人を含め、子どもから大人までわかりやすく群馬の歴史・文化を紹介する仕組みを整えている。 また、当館の10万点に及ぶ収蔵資料を活用し、タイムリーでフレキシブルな特別展示をコンスタントに実施している。 教育普及活動では、県内小中学校の歴史学習の利用促進のため、学校向けの利用案内や学習課程に合わせたワークブックを毎年リニューアルしている。 子ども向けの体験プログラムや企画展に関連したワークショップでは、一般及び高校生ボランティアが協力し、県民の生きがいをづくりと社会参加に寄与している。 広報宣伝活動では、群馬の歴史文化の価値と魅力の発信、展示への集客促進に向け、ホームページでの情報発信やメディアを活用するとともに、令和3年度からは若者向けにツイッター(現X)を開始し、コアなファン向けのフェイスブックとともにSNSでの発信強化に努めている。 なお、企画展示の案内を県内小中学校等に配布する際には、一部の小中学校と県立高校等にはデジタル配布も開始し、より広範囲に広報が行き渡るよう工夫している。 限られた予算及び人員で、県民ニーズに応えられる事業展開を図るため、県内外の他館の事例も参照しながら、コストダウンの検討や効率的な事業展開のための積極的な補助金(文化観光拠点施設機能強化事業等)の活用など、様々な方策を探っている。
施設運営に当たっての課題	県内の歴史系博物館の中核施設として、国宝や国重要文化財を数多く展示・収蔵しており、特に本県が世界に誇る埴輪等を中心に、原始から近現代に至るまでの様々な文化資源の価値や魅力を、外国人を含む多様な来館者にどのように広く発信していくかが課題となっている。 また、当館では、「博物館の使命と事業方針」(H26.3策定)において、安全・安心で人に優しい博物館として危機管理、管理運営を徹底することを掲げている。 昭和54年に開館してから、途中、改修工事を経たものの40年以上が経過した施設であることから、危機管理体制を整えるため、危機管理マニュアルにおいて、緊急事態への対応の周知と日常管理の徹底に努めているが、近年の猛暑やゲリラ豪雨等の気候変動により不測の事態が生じた場合の迅速・適切な対処が課題となっている。